

尾道市立久保中学校 第2学年 社会科学習指導案

単元名：「近世の日本」～ヨーロッパ人との出会いと全国統一～

指導者 尾道市立久保中学校
教諭 三浦 敏忠

日 時：平成26年12月12日（金）第3校時（10：45～11：35）
学年・学級：第2学年1組 29名（男子15名，女子14名）
場 所：2年1組教室

単元について

本単元は、中学校学習指導要領社会2（4）「近世の日本」をもとに設定したものであり、特に、戦国時代から、織田・豊臣による統一事業を経て、近世の基礎がつけられるまでの歴史を取り扱うものである。

本単元で取り扱う時代は、様々な勢力が各地に群雄割拠した混乱の時期から、織田・豊臣による統一政権が誕生し、安定した近世社会の基礎が形成された時期へと移行していった時代である。また、外国とのかわりにおいては、ヨーロッパ文化が伝来するとともに南蛮貿易が積極的に行われ、日本人が東南アジアの各地に進出するなど、対外関係が活発化した時代である。さらに、社会の安定化と、対外関係の活発化などを背景として、産業や交通が著しく発達し、新たな町人文化や生活文化が形成されていった時代である。

中学校学習指導要領解説社会編（以下解説）は、「歴史的分野の学習の中心は『我が国の歴史の大きな流れ』の理解であり、『各時代の特色』はそのために踏まえるべきものだという位置付けを明確にしたものである」として、歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解させることの重要性を述べている。さらに、解説は「幅広い資料の中から、必要な資料を選択して有効に活用することで、歴史的事象を一面的にとらえるのではなく、様々な角度から考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育成することが大切である」と述べている。

本単元では、織田・豊臣政権が実施した様々な政策にみられる政治的側面、安定した社会が出現したという社会的側面、鉄砲伝来や南蛮貿易、キリスト教に対する各政策にみられる対外的側面、安定した社会の出現と対外関係の活発化に由来する産業や交通の発展といった経済的側面、さらには新たな町人文化や生活文化が形成されていったという文化的側面など、様々な側面から資料を選択して活用する。その上で、政権からの視点、農民や町人からの視点など様々な視点から、多角的に考察した内容を相互に関連付けることによって、この時代の特色を把握し、混乱から安定へと向かう大きな時代の流れを理解させることができると考え、本単元を設定した。

調査結果からみる課題

平成26年度学力定着実態調査

右の表は、平成26年4月に該当学年において実施した「尾道市学力定着実態調査」の結果である。本校の社会科全体の通過率は、全国平均より8.3ポイント下回っている。

該当学年の生徒には、学習に示す意欲や関心が顕著に乏しい生徒や、社会科は「暗記教科」としてとらえ、社会的事象に関わる知識や社会的用語を個別的な知識として暗記するにとどまり、様々な資料から社会的事象に関する様々な情報を見だし、それら複数の情報を関連付け、学習課題について追究していこうとする生徒は少ない。

このことは、「社会的な思考・判断・表現」が全国平均よりも6.3ポイント下回っている点や、「資料活用の技能」が7.6ポイント下回っている点にも表れている。

また、本校の通過率と全国平均通過率の差が最も大きい観点は、「社会的事象についての知識・理解」

	本校	全国平均
社会科全体	41.8	50.1
社会的事象への 関心・意欲・態度	36.7	41.4
社会的な 思考・判断・表現	35.4	41.7
資料活用の技能	44.8	52.4
社会的事象についての 知識・理解	40.8	49.7

である。このことは、個別的・分断的な知識を暗記することが、「知識」や「理解」の定着にはつながらないことを示しており、先に述べた「資料活用の技能」と「思考・判断・表現」を行う力を育成する指導を継続的に行っていく必要がある。

個人カルテによる分析

学力に特に課題のある3名を抽出し、個人カルテの分析を行った。これによると、要支援群に該当する生徒は、生徒指導の三機能のうち、自己存在感の値と共感的人間関係の値が著しく低いことが分かった。また、非承認群に該当する生徒は他の値と比較して自己決定の値が、学級生活不満足群に該当する生徒は自己存在感の値が低いことが分かった。そのため、本単元の授業を行うにあたっては、小集団学習を通して自分の考えを説明したり聴いたりする場（自己存在感・共感的人間関係）を設定するとともに、小集団で考察した結果に基づいて、個人の考えをまとめる（自己決定）場を設定する必要がある。

指導改善のポイント

「学力定着実態調査」調査結果に関わる指導改善のポイント

上記「調査結果から見る課題」に示した本校該当学年の課題である「様々な資料から社会的事象に関する様々な情報を見つけだし、それら複数の情報を関連付け、学習課題について追究していこうとする」力が身につけていない原因として、次の点を考える。

- ①資料を活用して、能動的に思考し、判断するような学習場面を設定してこなかったため、生徒は与えられた知識を覚えることを社会科の学習であるととらえてきた。
- ②また、それぞれの社会的事象を理解する上で、資料を参考にする場合でも、事前に資料を読み取る視点を与えてきたため、生徒の思考は十分に働かなかった。
- ③思考した結果を、生徒自らが他者へ説明する場面を設定してこなかった。

これらのことから、今回の授業を指導するにあたっては、知識注入・暗記重視型の授業をさけ、資料に基づき生徒自らに、学習課題を解決するための知識を発見、理解させていく目的で、次のように改善する。

- ①社会的事象に関する複数の資料について、関係性を意識させながら分類させ、グループに分ける。さらにグループへのラベリングを行わせることを通して、生徒に学習課題を解決するための視点を発見させる。（資料の関係性の把握→分類→分類された資料へのラベリング）
- ②発見した視点をもとに追究し、学習課題に対する生徒自らの考えを図式化させるとともに、結論を文章化させる。
- ③図式化に至る思考過程や、結論を他者に説明させ、他者からの批判や承認を受けることを通して、自らの理解を修正、あるいは理解を深めさせる。

また、それぞれの授業における学習課題は、「単元観」に記述した「歴史の大きな流れ」を把握させる目的にかなうものを設定するとともに、平易な表現とする。

個人カルテ分析に基づく指導改善のポイント

個人カルテにあげた生徒は、いずれも、学級内で認められることが少ないか、不安傾向の強いかのいずれかであり、そのため、学習の場面においても意欲的になることができないと考えられる。このことから、授業を行うにあたっては、生徒指導の三機能を生かした指導を展開することにより、生徒の学習への意欲向上につなげていきたい。具体的には以下の点を指導に反映させる。

「資料の関係性の把握→分類→分類された資料へのラベリング」の場面においては、小集団学習を設定することで、お互いの意見や考えの交換、認め合いをさせる（共感的人間関係）とともに、小集団学習や集団学習で出された意見をもとに、学習課題について、自分の考えを整理する場面を設定する（自己決定）。また、小集団学習に際しては、全ての生徒が意見を開示し、互いの意見を尊重するように指導し、意欲的に学習できる雰囲気醸成する（自己存在感）。

また、指導者は、各小集団から出された意見を受け止め、尊重する。また、小集団学習中の机間指導の際に、意見を表明できない生徒への配慮、生徒の発言を承認する等の活動を通して、生徒の学習意欲を向上させる。

さらに、ワークシートを、生徒の思考の手立てとなるよう工夫することで、学力の課題のある生徒への支援を行う。また、パワーポイントやカードを利用して視覚支援を行う。

単元の目標

戦国時代の混乱の時代から、織田・豊臣による統一事業を通して、新しい安定した社会が生まれたという大きな時代の流れを理解させる。

【単元の評価規準】

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
①歴史の大きな流れを理解するため、歴史的事象についての資料や、それらの資料が示す事象に関心をもち、学習課題を意欲的に追究している。	①戦国時代から安土桃山時代へと、近世社会が成立する過程を、資料から読み取ることができる内容を踏まえながら、多面的・多角的に考察し、時代の特色や、歴史の大きな流れについて適切に判断し、自分の言葉で表現している。 ②新しい文化の特色について、資料から読み取ることのできる内容を踏まえながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①戦国時代から安土桃山時代へと、近世社会が成立する過程に関する史料、図、写真、年表、地図などの様々な資料を適切に読み取ったり、読み取った結果をまとめたりしている。	①戦国時代の混乱の時代から、織田・豊臣による統一事業を通して、新しい安定した社会が生まれたという大きな時代の流れを理解している。 a 戦国時代とは、統一政権が存在せず、室町幕府、戦国大名、朝廷、一向宗勢力を中心とする農民勢力、都市に興った新興勢力など、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを理解している。 b 安土桃山時代とは、主に織田・豊臣による統一政権が誕生し、安定した時代であったことを理解している。 ②近世社会の成立について、次の点との関係について理解し、その知識を身につけている。 a 世界の歴史 b 新しい文化の形成

指導と評価の計画

(全8時間) 本時7/8

次	時	学習内容	評価				評価規準	評価方法
			関	思	技	知		
1	1	戦国時代とはどのような時代か、時代の特色について説明する。 ・統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代	○	◎			ア① イ① エ①a	行動観察 ワークシート
2	1	南蛮人が日本をめざした背景について、説明する。 ・イスラム世界と十字軍 ・ルネサンス ・宗教改革 ・大航海時代		◎		○	イ① ウ① エ②a	行動観察 ワークシート
3	1	南蛮人が日本与えた影響について、説明する。 ・鉄砲伝来 ・キリスト教伝来 ・南蛮貿易		◎		○	イ② ウ① エ②b	行動観察 ワークシート
4	1	織田・豊臣の統一事業の特色について、説明する。 ・織田信長の統一事業 商工業の発展(楽市楽座 関所の廃止 南蛮貿易) 宗教政策(仏教勢力に厳しい キリスト教の容認)		○		◎	イ① ウ① エ①b	行動観察 ワークシート
	2	織田・豊臣が行った統一事業について、説明する。 ・豊臣秀吉の統一事業		○		◎	イ① ウ①	行動観察 ワークシート

		兵農分離（太閤検地 刀狩） 宗教政策（バテレン追放） 外交政策（朝鮮出兵 南蛮貿易）					エ①b	
5	1	安土桃山時代とはどのような時代か，時代の特色を説明する。 ・織田・豊臣による統一政権による，安定した時代。	○	◎			ア① イ① エ①b	行動観察 ワークシート
6	1	桃山文化の特色を，説明する。 ・権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化 ・南蛮様式の影響を受けた文化 ・生活に根ざした文化 【本時】		◎	○		ア① イ② ウ①	行動観察 ワークシート
7	1	単元のまとめ ・戦国時代から安土桃山時代への歴史の大きな変化を説明する		◎	○		ア① イ① エ①②	行動観察 ワークシート

本時の学習

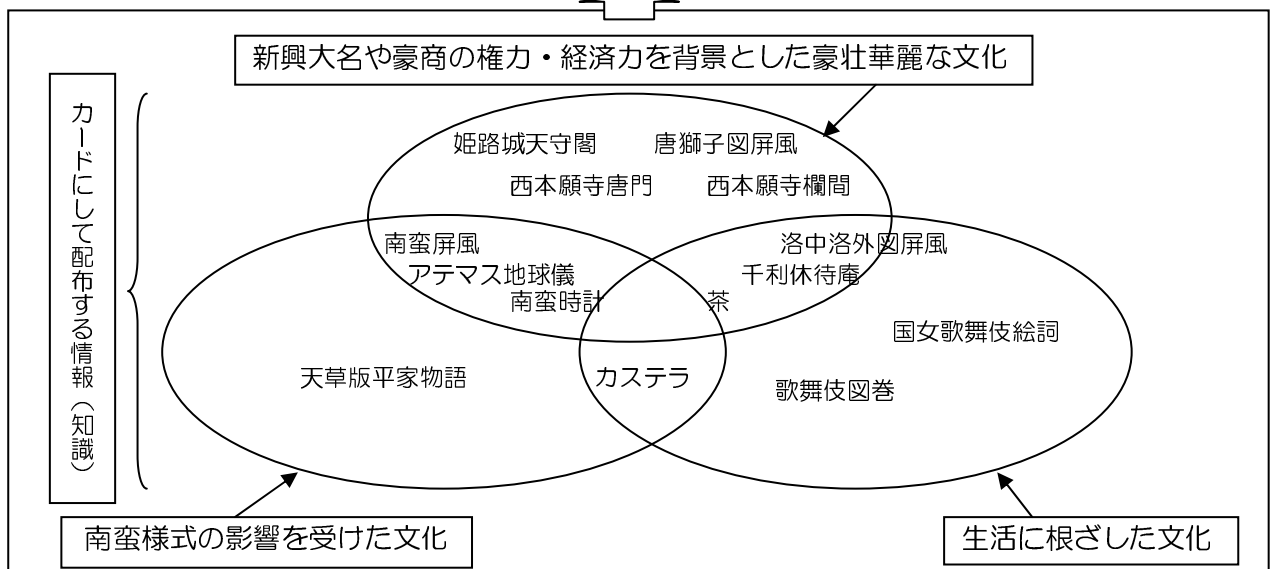
(1) 目標 桃山文化は，新興大名や豪商の権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化であるだけでなく，南蛮様式の影響を受けた文化であり，生活に根ざした文化でもあるという特色をもつ文化であることを，説明できる。

(2) 観点別評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能
桃山文化についての資料に関心を持ち，学習課題を意欲的に追究している。	新しい文化の特色について，資料から読み取ることのできる内容を踏まえながら，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	桃山文化に関する写真資料を適切に読み取ったり，読み取った結果をまとめたりしている。

(3) 本時の学習課題を考察するために必要な知識（例）

桃山文化は，新興大名や豪商の権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化であるだけでなく，南蛮様式の影響を受けた文化であり，生活に根ざした文化であるという特色をもつ文化である。



(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準 評価方法
1 学習課題の提起と「本時のめあて」の確認		

<p>導入 5分</p>	<p>○既習事項を確認する 「次の人物は誰ですか」 →生徒「織田信長」 →生徒「豊臣秀吉」 「織田信長と豊臣秀吉が政治の中心にあった時代をなんと言いますか」 →生徒「安土桃山時代」 「織田信長と豊臣秀吉が政治の中心にあった安土桃山時代に栄えた文化を『桃山文化』といいます」 ○本時のめあてを確認する</p>	<p>◇既習事項を再認させる ◆視覚支援を行う</p> <p>◇めあては、生徒に分かりやすい表現とする。</p>	
<p>本時のめあて：桃山文化の「らしさ（特色）」を説明しよう</p>			
<p>2 カードの分類とラベリング → 発表</p>			
<p>展開 35分</p>	<p>○学習活動を確認する 「桃山文化に関するカードを配ります」(各班14種ずつ)</p> <p>○カードの分類、ラベリングについて話し合う 「カードを仲間分けしなさい」 「その際、なぜその仲間分けをしたのか理由が分かるようなキャッチコピー（視点）を、仲間分けしてできたグループごとに考えて書きなさい」 【小集団】</p> <p>例 「姫路城天守閣や唐獅子図屏風を仲間にしたのはなぜか」 ・豪壮華麗、権力や経済力の視点を発見する 「天草版平家物語と南蛮屏風を仲間にしたのはなぜか」 ・ヨーロッパの影響を発見する 「歌舞伎図巻と洛中洛外図屏風を仲間にしたのはなぜか」 ・生活に根ざしていることを発見する</p> <p>○班ごとに発表する 【集団】 →質問や疑問点があれば出す →質問や疑問に回答する</p> <p>例 洛中洛外図屏風を『豪華壮麗な文化』に分類している班に対して、</p>	<p>◇写真資料をカード状にしたものを班に配布し、分類をやすくする ◆カードは生徒が視点を発見できるよう、指導者が結論を整理した上で選択する ◆カードを操作させることを通して、学習意欲を喚起する ◆小集団学習においては、全ての生徒が意見を開示し、互いの意見を尊重するように予め指導し、意欲的に学習できる雰囲気醸成する 【共感的人間関係】【自己存在感】 ◆小集団学習中の机間指導の際に、意見を表明できない生徒への発言の促し、発言の承認等の活動を通して、生徒の学習意欲を向上させる 【共感的人間関係】【自己存在感】</p> <p>◇なぜそのような仲間分けをしたのか、説明できるようにしておくことを指示しておく 天守閣は単に防衛の目的だけではなく権威を示す目的もある。などの説明を準備させる</p> <p>◇ワークシートに、小集団学習で出たキャッチコピー（視点）を記入させる</p> <p>◇指導者は、各小集団から出された意見を受け止め、尊重する また、生徒が相互に尊重する雰囲気醸成する。 【共感的人間関係】 ◇カードとキャッチコピーを、生徒に黒板へ貼り出させることによって、視覚支援を行う</p>	<p>桃山文化についての資料に関心をもち、学習課題を意欲的に追究している 〔関心・意欲・態度〕 (行動観察)</p> <p>桃山文化に関する写真資料を適切に読み取ったり、読み取った結果をまとめたりしている 〔資料活用の技能〕 (行動観察) (ワークシート)</p>

	「描かれているものは町の様子ですから、『庶民の文化』になるのではないですか」 など	◇黒板に貼り出させたキャッチコピーのうち、自分の小集団の意見になかったものは、ワークシートに朱で書き加えさせる	
ま と め 10 分	3 本時のまとめを行う		
	○桃山文化の特色を文章で表現する 「黒板上にできた図を参考にして、桃山文化の『らしさ』（特色）を説明しよう」	◇小集団学習、集団学習で出されたキャッチフレーズをもとに、学習課題について総合的に考察させ、自らの考えを整理させる 【自己決定】 ◆文章を書くことが苦手な生徒には、図で表現してもよいことを指示する	桃山文化の特色について、資料から読み取ることのできる内容を踏まえながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している 〔思考・判断・表現〕 (ワークシート)
	【評価基準】 A 桃山文化が、新興大名や豪商の権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化である一方、南蛮様式の影響を受けた文化であるとともに、生活に根ざした文化であるという特色をもつ文化であることを、具体的な歴史的事象を挙げながら説明できている（もしくは図で表現できている）。 B 桃山文化が、新興大名や豪商の権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化である一方、南蛮様式の影響を受けた文化であるとともに、生活に根ざした文化であるという特色をもつ文化であることを説明できている（もしくは図で表現できている）。 C 桃山文化が、新興大名や豪商の権力・経済力を背景とした豪壮華麗な文化である一方、南蛮様式の影響を受けた文化であるとともに、生活に根ざした文化であるという特色をもつ文化であることを説明できていない（もしくは無記入である）。		
	○桃山文化の特色を発表する	◇机間指導の際に予め決めた生徒に発表させる	

評価問題

1. 元禄文化は、どのような文化だろう。

- ①教科書 P114～P115 を開き、元禄文化の特色について説明しているキーワードとなる言葉をできるだけたくさん挙げなさい。
- ②問題①で答えたキーワードを仲間分けして図に示し、それぞれのグループにふさわしいキャッチフレーズをつけなさい。
- ③元禄文化とは、どのような文化だろう。説明しなさい（文章で書くことが難しいと思った生徒は、図で表現しなさい）。

【③の評価基準】

- A 元禄文化が、京都・大坂を中心とする上方文化であり、都市の繁栄を背景に豪商など経済力をもった町人を担い手とする文化である一方、徳川綱吉の政治と結びついて儒学（朱子学）の影響を強く受けた文化であることを、具体的な歴史的な事象を挙げながら、説明することができている。
- B 元禄文化が、京都・大坂を中心とする上方文化であり、都市の繁栄を背景に豪商など経済力をもった町人を担い手とする文化である一方、徳川綱吉の政治と結びついて儒学（朱子学）の影響を強く受けた文化であることを、説明することができている。
- C 元禄文化が、京都・大坂を中心とする上方文化であり、都市の繁栄を背景に豪商など経済力をもった町人を担い手とする文化である一方、徳川綱吉の政治と結びついて儒学（朱子学）の影響を強く受けた文化であることを、説明することができていない。もしくは無記入である。